CLUSTERPRO
MC StorageSaver 2.8
for Windows
イベントログメッセージ一覧

© 2023 (Apr) NEC Corporation

はじめに
StorageSaver の運用メッセージ
その他のメッセージ
障害解析情報の採取

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.3	新規作成
2.0	2015.6	誤記修正
3.0	2016.3	メッセージを追記
4.0	2017.4	バージョンアップに伴い改版
5.0	2018.4	バージョンアップに伴い改版
6.0	2018.6	障害解析情報、商標の記載の修正
7.0	2019.4	バージョンアップに伴い改版
8.0	2020.4	バージョンアップに伴い改版 4. 障害解析情報の採取 4.1.3. VMware vCenter Server 対応版で監視を行う場合 ・新規使用コマンドの実行結果の採取について記載 ・vCenterServer 接続と ESXi 接続の注意書きを追加
9.0	2021.4	バージョンアップに伴い改版
10.0	2021.9	iStorage StoragePathSavior 9.0 for Windows に対応
11.0	2022.4	バージョンアップに伴い改版 コンフィグレーションに関するメッセージの下限値の記載を変更 ・TimeDiskFault、TimeLinkDown、TimeInqInterval、TimeDiskStall
12.0	2023.4	バージョンアップに伴い改版 下記障害解析情報の採取方法(採取コマンド)を変更 4.1.2 仮想環境で仮想ディスクを構成する物理 I/O パス単位の監視を行う場合 4.1.3 VMware vCenter Server 対応版で監視を行う場合

はしがき

本書は、 CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.8 for Windows (以後 StorageSaver と記載します)の出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

（1） 商標および登録商標

Dell, EMC, および Dell, EMC が提供する製品およびサービスにかかる商標は、米国 Dell Inc. またはその関連会社の商標または登録商標です。
VMware ESXi は、米国およびその他の地域における VMware 商標および登録商標です。
Oracle は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
log4net は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥bin¥LICENSE.txt
その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。
なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

（2） 本書では、 StorageSaver で出力されるイベントログのメッセージを説明します。
なお、間欠障害監視機能のイベントログのメッセージについては、
以下のマニュアルに記載しております。

「CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.8 for Windows 間欠障害監視機能 ユーザーズガイド」

目次

1. はじめに 1

2. StorageSaver の運用メッセージ 2

3. その他のメッセージ 4

3.1. サービス起動に関するメッセージ 4
3.2. プロセス間通信に関するメッセージ 6
3.3. コンフィグレーションに関するメッセージ 7
3.4. Srgpingに関するメッセージ..... 21
3.5. Srgnpingに関するメッセージ..... 22
3.6. サービス監視に関するメッセージ 23
3.7. ライセンス管理に関するメッセージ 24
3.8. Srgvpingでの ESXi ホストとの連携に関するメッセージ 25

4. 障害解析情報の採取 26

4.1. 本製品の障害解析情報..... 26
4.1.1. 物理環境、または仮想環境で仮想ディスク単位の監視を行う場合 26
4.1.2. 仮想環境で仮想ディスクを構成する物理 I/O パス単位の監視を行う場合..... 28
4.1.3. VMware vCenter Server対応版で監視を行う場合 30

1. はじめに

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
【】	ファイル名およびフォルダー名の前後	【インストールフォルダー】 ¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config
[ ]	項目名の前後	[HA StorageSaver]サービスの監視を 開始しました。

2. StorageSaver の運用メッセージ

特に重要度の高いメッセージを記載します。
これらの イベントログメッセージを警報対象として監視することを推奨します。

● TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

エラー

パスが Down になりました。(パス = `パス情報')
説明:TestI/O で パスレベルの異常を検出
処置:I/O パス異常を検出しましたので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

パスが Down になりました。(datastore = `データストア名' :
runtime = `物理パスランタイム名' :
uid = `物理パス UID')
説明:ESXi(ホスト)から取得した物理パスの異常を検知
本メッセージは vSphere ESXi 上の仮想 2016 でのみ出力されるメッセージです。
処置:物理パス異常を検出しましたので、早急に該当パスおよびディスクの点検を行ってください。

ドライブレターが Down になりました。(ドライブレター = `ドライブ名')
説明:TestI/O で ドライブレターレベルの異常(down)を検出
処置:ドライブレターを構成するすべての I/O パスが障害となっています。
早急にディスクの点検を行ってください。

Asm ディスクグループが Down になりました。
(Asm ディスクグループ = `ASM ディスクグループ名')
説明:TestI/O で ASM ディスクグループレベルの異常を(down)検出
本メッセージは Oracle ASM の構成を監視する場合
にのみ出力されるメッセージです。
処置:ASM ディスクグループを構成する1つあるいは複数の ASM ディスクが
障害となっています。早急にディスクの点検を行ってください。

I/O リクエストが時間内に完了しませんでした。(DriveLetter = `ドライブ名')
説明:TestI/O で I/O ストールを検出
処置:ディスクが故障している可能性がありますので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

I/O リクエストが時間内に完了しませんでした。(Path = `パス情報')
説明:TestI/O で I/O ストールを検出
処置:ディスクが故障している可能性がありますので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

情報

パスを閉塞します。(パス = `パス情報')

説明:TestIOFaultAction に BlockPath が設定されている場合に、
TestI/O で パスレベルの異常を検出時に閉塞を行います。

処置:I/O パス異常を検出しましたので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

● NAS リソース監視で異常を検出した場合

エラー

NAS が Down になりました。(プロトコル=`プロトコル情報',サーバー=`サーバー情報',共有名=`共有名情報')

説明:NAS リソースの異常を検出

処置:NAS リソースの異常を検出しましたので、監視対象サーバーの接続状況を
確認してください。
※連続して出力される場合は、監視が正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

3. その他のメッセージ

その他のメッセージの説明を記載します。
これらの イベントログメッセージはディスク装置の故障ではなく、
サービスの内部的なエラーや情報のため警報対象として監視することは不要です。

3.1. サービス起動に関するメッセージ

Srgping のプロセスを KILL できませんでした。

説明:Srgd.exe 実行時に Srgping.exe のプロセスが存在したため、
終了させようとしましたが失敗しました。
処置:手動で Srgping.exe のプロセスを終了後、サービスを起動してください。

Srgping を開始します。

説明:Srgd.exe が Srgping.exe を実行し、プロセスの監視を始めました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

Srgping が終了しました。

説明:Srgping.exe が異常終了しました。
処置:特に必要ありません。Srgd.exe が自動で Srgping.exe を再起動します。
※連続して出力される場合は、サービスが正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

Srgvping のプロセスを KILL できませんでした。

説明:Srgd.exe 実行時に Srgvping.exe のプロセスが存在したため、
終了させようとしましたが失敗しました。
処置:手動で Srgvping.exe のプロセスを終了後、サービスを起動してください。

Srgvping を開始します。

説明:Srgd.exe が Srgvping.exe を実行し、プロセスの監視を始めました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

Srgvping が終了しました。

説明:Srgvping.exe が異常終了しました。
処置:特に必要ありません。Srgd.exe が自動で Srgvping.exe を再起動します。
※連続して出力される場合は、サービスが正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

Srgnping のプロセスを KILL できませんでした。

説明:Srgd.exe 実行時に Srgnping.exe のプロセスが存在したため、
終了させようとしましたが失敗しました。
処置:手動で Srgnping.exe のプロセスを終了後、サービスを起動してください。

Srgnping を開始します。

説明:Srgd.exe が Srgnping.exe を実行し、プロセスの監視を始めました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

Srgnping が終了しました。

説明:Srgnping.exe が異常終了しました。
処置:特に必要ありません。Srgd.exe が自動で Srgnping.exe を再起動します。
※連続して出力される場合は、サービスが正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

レジストリからインストールパス情報が取得できませんでした。

説明:レジストリに StorageSaver の情報がない可能性があります。
処置:レジストリの情報を確認してください。情報がない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Update SCSI Address. [new SCSI Address = X:X:X:X : previous = X:X:X:X]

説明:監視対象のパスが変わっているため、実環境のパスで監視します。
処置:リソース定義ファイルと構成定義ファイルの内容を最新の状態に
してください。

Disk 情報の BusType が取得できませんでした。

説明:監視対象のディスク装置情報の取得が異常終了しました。
処置:ディスク装置に異常がないか確認してください。
※連続して出力される場合は、監視が正常に動作していない
可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

SPS から SerialNumber が取得できません。(Disk=X)。

説明:SPS から SerialNumber が取得できません。
処置:システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

SPS から LDNumber が取得できません。(Disk=X)。

説明:SPS から LDNumber が取得できません。
処置:システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、
障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

3.2. プロセス間通信に関するメッセージ

サーバチャネルの作成に失敗しました。(xxx).

説明:Srgd.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

クライアントチャネルの作成に失敗しました。(xxx).

説明:Srgping.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

HA StorageSaver サービスの起動状態を確認してください。(xxx).

説明:サービスが開始されていない、または、Srgd.exe を正常に起動できていない可能性があります。

処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

3.3. コンフィグレーションに関するメッセージ

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config が見つかりません。

説明:StorageSaver の起動(システム定義ファイル
【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config の
オープン)に失敗しました。

処置:システム定義ファイルが存在しません。
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc が見つかりません。

説明:StorageSaver の起動(リソース定義ファイル
【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc の
オープン)に失敗しました。

処置:リソース定義ファイルが存在しません。
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map が見つかりません。

説明:StorageSaver の起動(構成定義ファイル
【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map の
オープン)に失敗しました。

処置:構成定義ファイルが存在しません。
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

**【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.config の
読み込みに失敗しました。**

説明:srg.config ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置:srg.config ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

システム定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg.config ファイルに設定可能なエントリではないエントリが
記載されています。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault の設定可能範囲は 6～2147483647 です。(xxx)
TimeDiskFault は default の値(60)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskFault に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(60)で起動します。

処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault のフォーマットが不正です。(TimeDiskFault xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskFault が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeLinkdown の設定範囲は 6～2147483647 です。(xxx)

TimeLinkdown は default の値(180)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeLinkdown に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(180)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeLinkdown のフォーマットが不正です。(TimeLinkdown xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeLinkdown が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeInqInterval の設定範囲は 1～86400 です。(xxx)

TimeInqInterval は default の値(20)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeInqInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(20)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeInqInterval のフォーマットが不正です。(TimeInqInterval xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeInqInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTurInterval の設定範囲は 0～2147483647 です。(xxx)

TimeTurInterval は default の値(180)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeTurInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(180)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTurInterval のフォーマットが不正です。(TimeTurInterval xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeTurInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval の設定範囲は 0～2147483647 です。(xxx)
TimeReadInterval は default の値(0)を設定しました。
説明:srg.config ファイルに定義されている TimeReadInterval に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(0)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval のフォーマットが不正です。(TimeReadInterval xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている TimeReadInterval が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction の設定可能な値は ActionNone,BlockPath です。(xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOFaultAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction のフォーマットが不正です。(TestIOFaultAction xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOFaultAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskFaultAction の設定可能な値は
ServiceCmdDisable,ServiceCmdEnable です。(xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている DiskFaultAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskFaultAction のフォーマットが不正です。(DiskFaultAction xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている DiskFaultAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOUse の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)
TestIOUse は default の値(ENABLE)を設定しました。
説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOUse の値に設定可能な値以外
が設定されていたため、デフォルト値(ENABLE)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOUse のフォーマットが不正です。(TestIOUse xxx)
説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOUse が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BaseTimer の設定値が不正です。(xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている BaseTimer が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BaseTimer のフォーマットが不正です。(BaseTimer xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている BaseTimer が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall の設定範囲は 6～86400 です。(xxx)
TimeDiskStall は default の値(360)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskStall に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(360)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall のフォーマットが不正です。(TimeDiskStall xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TimeDiskStall が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction の設定可能な値は
ServiceCmdDisable,ServiceCmdEnable です。(xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction のフォーマットが不正です。(DiskStallAction xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval の設定範囲は 1～108000 です。(xxx)
WaitTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval のフォーマットが不正です。(WaitTestIOInterval xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DailyCheckTime の設定範囲は 0～23 です。(xxx)
DailyCheckTime は default の値(10)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている DailyCheckTime に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(10)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DailyCheckTime のフォーマットが不正です。(DailyCheckTime xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている DailyCheckTime が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

ExecSyncEnable の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)
ExecSyncEnable は default の値(ENABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている ExecSyncEnable の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(ENABLE)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

ExecSyncEnable のフォーマットが不正です。(ExecSyncEnable xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている ExecSyncEnable が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)
TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(DISABLE)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO は ENABLE ですが
利用可能な OS のバージョンではありません。
TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO のフォーマットが不正です。(TestIOModeMPIO xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode の設定可能な値は Inq, InqTur, InqTurRead, Read です。(xxx)
TestIOMode は default の値(InqTur)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOMode の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(InqTur)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode のフォーマットが不正です。(TestIOMode xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている TestIOMode が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

AutoRecovery の設定可能な値は ENABLE, DISABLE です。(xxx)
AutoRecovery は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:srg.config ファイルに定義されている AutoRecovery の値に
設定可能な値以外が設定されていたため、
デフォルト値(DISABLE)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

AutoRecovery のフォーマットが不正です。(AutoRecovery xxx)

説明:srg.config ファイルに定義されている AutoRecovery が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc の
読み込みに失敗しました。

説明:srg.rsc ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg.rsc ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

リソース定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxxxx yyy)

説明:srg.rsc ファイルに設定可能なエントリではないエントリが
記載されています。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

FC|SCSI のフォーマットが不正です。(FC xxx)

説明:srg.rsc ファイルに定義されている FC(SCSI)エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx yyyy)

説明:srg.rsc ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

Interface Type エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明:srg.rsc ファイルに定義されている DISK エントリより上に FC(SCSI)エントリが記載されていません。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map の読み込みに失敗しました。

説明:srg.map ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg.map ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

構成定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxxxx yyy)

説明:srg.map ファイルに設定可能なエントリではないエントリが記載されています。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG のフォーマットが不正です。(PKG xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている PKG エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER のフォーマットが不正です。(DRIVELETTER xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている
DRIVELETTER エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER (DRIVELETTER xxxx)のフォーマットが不正です。

説明:srg.map ファイルに定義されている
DRIVELETTER エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、DRIVELETTER エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている DRIVELETTER エントリより上に PKG エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

FSTYPE のフォーマットが不正です。(FSTYPE xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている FSTYPE エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、FSTYPE エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリより上に PKG エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

RscAction の設定可能な値は ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnable です。(xxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている RscAction の値に設定可能な値以外が設定されていたため、DiskFaultAction に指定されている値で起動します。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、RscAction エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリより上に PKG エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER エントリがありませんが、RscAction エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリより上に DRIVELETTER エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

RscAction のフォーマットが不正です。(RscAction xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている RscAction エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP のフォーマットが不正です。(GROUP xxxx yyyy)

説明:srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、GROUP エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている GROUP エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

PKG エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている DISK エントリより上に
PKG エントリが記載されていません。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明:srg.map ファイルに定義されている DISK エントリより上に GROUP エントリ
が記載されていません。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

リソース定義ファイルから DISK 情報が参照できません。(DISK xxxx)

説明:srg.map ファイルに定義されている DISK エントリに
srg.rsc ファイルで定義していない DISK エントリが記載されています。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg_v.config の読み込みに失敗しました。

説明:srg_v.cofig ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg_v.config ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を修正してください。

仮想環境用システム定義ファイルのフォーマットが不要です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに設定可能ではないエントリが記載されています。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

HostIP のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている HostIP が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

HttpsPort のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている Httpsport が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

LocalIP のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている LocalIP が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

UserInfoFileName のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている UserInfoFileName が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfAction のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfAction の設定可能な値は VmCommand です。(xxx)

説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfAction に設定可能な値以外が
設定されています。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfTimeOut のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfTimeOut が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfTimeOut の設定範囲は 5～60 です。(xxx)
IfTimeOut は default の値(10)を設定しました。

説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfTimeOut に設定可能な値以外が
設定されていたため、デフォルト値(10)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を修正してください。

IfRetry のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfRetry が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfRetry の設定範囲は 1～60 です。(xxx)
IfRetry は default の値(3)を設定しました。

説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfRetry に設定可能な値以外が
設定されていたため、デフォルト値(3)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を修正してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg_v.config の読み込みに失敗しました。

説明:srg_v.cofig ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg_v.config ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を修正してください。

仮想環境用システム定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに設定可能ではないエントリが記載されています。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

HostIP のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている HostIP が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

HttpsPort のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている Httpsport が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

LocalIP のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている LocalIP が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

UserInfoFileName のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている UserInfoFileName が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfAction のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfAction が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfAction の設定可能な値は VmCommand です。(xxx)

説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfAction に設定可能な値以外が
設定されています。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfTimeOut のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfTimeOut が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfTimeOut の設定範囲は 5～60 です。(xxx)
IfTimeOut は default の値(10)を設定しました。

説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfTimeOut に設定可能な値以外が
設定されていたため、デフォルト値(10)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を修正してください。

IfRetry のフォーマットが不正です。(xxx)

説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている IfRetry が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

IfRetry の設定範囲は 1～60 です。(xxx)
IfRetry は default の値(3)を設定しました。
説明:srg_v.config ファイルに定義されている IfRetry に設定可能な値以外が
設定されていたため、デフォルト値(3)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を修正してください。

MonitorType のフォーマットが不正です。(xxx)
説明:srg_v.cofig ファイルに定義されている MonitorType が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を修正してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.rsc の読み込みに失敗しました。
説明:srg.rsc ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg.rsc ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf¥srg.map の読み込みに失敗しました。
説明:srg.map ファイルを正しく読み込むことができませんでした。
処置:srg.map ファイルの内容が不正な可能性があります。
不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

ASM ディスクグループの障害グループ数が、ミラー化レベル未満です。
説明:srg.map ファイルに定義されている障害グループ数が
srg.map に定義されている ASM_MIRROR_x の値未満でした。
処置:srg.map ファイルの内容が不正な可能性があります。
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Srgquery コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

NasMonitorInterval のフォーマットが不正です。(NasMonitorInterval xxx)
説明:srg.nas ファイルに定義されている NasMonitorInterval が不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

NasMonitorInterval は default の値(30)を設定しました。
説明:srg.nas ファイルに定義されている NasMonitorInterval に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(60)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正してください。

SharedNameMonitorCmdTimeout のフォーマットが不正です。
(SharedNameMonitorCmdTimeout xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている SharedNameMonitorCmdTimeout が
不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

SharedNameMonitorCmdTimeout は default の値(20)を設定しました。

説明:srg.nas ファイルに定義されている SharedNameMonitorCmdTimeout に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(20)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するしてください。

TimeSharedNameMonitorError のフォーマットが不正です。
(TimeSharedNameMonitorError xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている TimeSharedNameMonitorError が
不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

TimeSharedNameMonitorError は default の値(90)を設定しました。

説明:srg.nas ファイルに定義されている TimeSharedNameMonitorError に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(90)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するしてください。

NasDownAction のフォーマットが不正です。(NasDownAction xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている NasDownAction が
不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

NasDownAction は default の値(ServiceCmdDisable)を設定しました。

説明:srg.nas ファイルに定義されている NasDownAction に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値
(ServiceCmdDisable)で起動します。
処置:特に必要ありません。
※修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するしてください。

PkgName のフォーマットが不正です。(PkgName xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている PkgName が
不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

IPAddress のフォーマットが不正です。(IPAddress xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている IPAddress が
不正です。
処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

Protocol のフォーマットが不正です。(Protocol xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている Protocol が
不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

SharedName のフォーマットが不正です。(SharedName xxx)

説明:srg.nas ファイルに定義されている SharedName が
不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

NAS 環境用システム定義ファイルのフォーマットが不正です。

説明:srg.nas ファイルに規定外のパラメーターが定義されています。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正してください。

3.4. Srgping に関するメッセージ

srgping が開始されました。

説明:Srgd.exe が Srgping.exe を開始しました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

BaseTable が取得できません。

説明:コンフィグレーション情報の取得に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

srgping が停止されました:終了コード=xxx

説明:Srgping.exe が異常終了しました。
処置:特に必要ありません。自動で Srgping.exe を再起動します。
※連続して出力されている場合は、サービスが正常に
動作していない可能性がありますので、障害解析情報を採取し、
サポートセンターに連絡してください。

SPS がインストールされていません。

説明:サービス起動後に、StoragePathSavior が削除された可能性があります。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

PowerPath がインストールされていません。

説明:サービス起動後に、PowerPath が削除された可能性があります。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

3.5. Srgnping に関するメッセージ

srgnping が開始されました。

説明:Srgd.exe が Srgnping.exe を開始しました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

BaseTable が取得できません。

説明:コンフィグレーション情報の取得に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

NAS BaseTable が取得できません。

説明:コンフィグレーション情報の取得に失敗しました。
処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても
異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに
連絡してください。

srgnping が停止されました:終了コード=xxx

説明:Srgnping.exe が異常終了しました。
処置:特に必要ありません。自動で Srgnping.exe を再起動します。
※連続して出力されている場合は、サービスが正常に
動作していない可能性がありますので、障害解析情報を採取し、
サポートセンターに連絡してください。

3.6. サービス監視に関するメッセージ

Srgwatch が開始しました。

説明:[HA StorageSaver Srgwatch]サービスが開始しました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンの監視を開始しました。

説明:[HA StorageSaver]サービスの監視を開始しました。
処置:特に必要ありません。正常なメッセージです。

Srgwatch が停止しました。

説明:[HA StorageSaver Srgwatch]サービスが停止しました。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンを起動します。

説明:[HA StorageSaver]サービスが停止したため、
サービスを再起動します。
処置:特に必要ありません。正常メッセージです。

リソース監視デーモンが停止しました。

説明:[HA StorageSaver]サービスが停止したことを検出しました。
処置:自動で再起動されるため、特に必要ありません。

リソース監視デーモンの起動に失敗しました。

説明:[HA StorageSaver]サービスの再起動を行いましたが、
再起動に失敗しました。
処置:失敗した場合、再度、自動で[HA StorageSaver]の起動を
行うため、特に必要ありません。

※頻繁に

・リソース監視デーモンを起動します。
・リソース監視デーモンが停止しました。
・リソース監視デーモンの起動に失敗しました。

のメッセージが出力されている場合、サービスが正常に動作していない可能性がありますので、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

3.7. ライセンス管理に関するメッセージ

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うホスト ID で生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。
処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うプロダクトキーで生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。
処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。プロダクトキーは存在しません。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。
処置:ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

ライセンスチェックに失敗。ライセンスは期限切れです。

説明:ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。
処置:正式版ライセンスを登録してください。

ライセンスツールがインストールされていません。

説明:ライセンスツールがインストールされていません。
処置:ライセンスツールをインストールしてください。

After YYYYMMDD, monitoring function is stopped.

説明:ライセンス認証に失敗しました。
YYYYMMDD までは通常どおり使用できますが、経過後は機能制限を行います。機能制限中は障害が検知されません。
処置:発行されたコードワードを登録してください。

Monitoring stop until activation succeeded.

説明:ライセンス認証に失敗しました。
正しいコードワードの登録が確認できるまで StorageSaver の機能が制限されます。
機能制限中は障害が検知されません。
処置:発行されたコードワードを登録してください。

3.8. Srgvping での ESXi ホストとの連携に関するメッセージ

vSphere ESXi 上の仮想 OS でのみ出力されるメッセージです。

ユーザー情報ファイルが存在しません。

説明:ESXi ホストへ接続するためのユーザー管理ファイルが存在しません。
処置:hauserctrl コマンドでユーザー管理ファイルを作成してください。

パス情報取得が失敗しました。(リトライオーバ)

説明:ESXi ホストの物理パス情報取得が失敗しました。
物理パス情報取得処理を再度行います。
処置:特に必要ありません。
ただし、連続して発生している場合は、ESXi ホストへ接続できる環境か確認してください。

パス情報取得が失敗しました。(タイムアウト)

説明:ESXi ホストの物理パス情報取得がタイムアウトしました。
物理パス情報取得処理を再度行います。
処置:特に必要ありません。
ただし、連続して発生している場合は、リソース不足の可能性があります。

4. 障害解析情報の採取

本製品運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順にしたがって情報採取を
行ってください。

4.1. 本製品の障害解析情報

4.1.1. 物理環境、または仮想環境で仮想ディスク単位の監視を行う場合

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

監視構成ファイル	【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下の全ファイル
トレースファイル	【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥log 配下の全ファイル
イベントログファイル	【windir】¥System32¥Winevt¥Logs¥Application.evtx 【windir】¥System32¥Winevt¥Logs¥System.evtx
コマンド出力結果	運用管理 コマンドの以下の出力結果 【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin -i 【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin -c param diskpart コマンドの以下の出力結果 list disk list volume list partition (※1) spscmd -getlun -a (※2) または spsadmin /lun /a (※2) powermt display dev=all (※3) dlnkmgr view -lu -item (※4) powershell gwmi -namespace "root¥wmi" MPIO_GET_DESCRIPTOR powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_VirtualDisk (※7) powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_VirtualDiskToDisk (※7) powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_DiskToPartition (※7) powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_Partition (※7) powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_VirtualDiskToPhysicalDisk (※7) powershell gwmi -namespace "root¥microsoft¥windows¥storage" MSFT_PhysicalDisk (※7) asmtool -list (※5,6) asmcmd lsdg (※5,6) asmcmd lsdsk -k -G <ASM ディスクグループ名> (※5,6)

(※1) すべてのディスクの結果を取得
(※2) SPS を使用している場合
(※3) PowerPath を使用している場合
(※4) HDLM を使用している場合
(※5) Oracle ASM の構成を監視している場合
(※6) コマンドを実行する場合は、Oracle の Grid Infrastructure をインストールしたユーザーでログインしてください。
(※7) 記憶域プールを構成している環境を監視している場合

クラスター関連ファイル　(※)クラスター関連ファイルについては各クラスターウェア製品により異なりますので、製品ごとにマニュアルを参照してください。

CLUSTERPRO X の場合 clplogcc コマンド実行して収集します。
使用するコマンド : clplogcc -o【収集情報格納先フォルダー】

操作ログ

再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

4.1.2. 仮想環境で仮想ディスクを構成する物理 I/O パス単位の監視を行う場合

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

監視構成ファイル	【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥conf 配下の全ファイル
トレースファイル	【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥log 配下の全ファイル
イベントログファイル	【windir】¥System32¥Winevt¥Logs¥Application.evtx 【windir】¥System32¥Winevt¥Logs¥System.evtx
コマンド出力結果	**運用管理コマンドの以下の出力結果** 【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin -i 【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaver¥bin¥Srgadmin -c param **diskpart コマンドの以下の出力結果** list disk list volume list partition (※1) (※1) すべてのディスクの結果を取得 **powershell コマンドの以下の出力結果** ※Windows PowerShell (管理者) を起動の上、コマンド入力してください。 Connect-VIServer -Server <IP> -User <ユーザー> -Password <パスワード> -Force (Get-VMHost <IP> | Get-EsxCli -v2).storage.core.path.list.invoke() (Get-VMHost <IP> | Get-EsxCli-v2).storage.vmfs.extent.list.invoke() ※Powershell コマンド中の引数の説明 <IP> : ESXi ホストの IP アドレス <ユーザー> : ESXi ホストのユーザー名 <パスワード> : ESXi ホストのパスワード

ESXi システムログ (※) vSphere ESXi 上の仮想 OS の場合のみ	以下の手順で ESXi システムログをダウンロードしてください。 1. vSphere Web Client を起動し、ESXi ホストに接続します。 2. 画面左側のツリーから ESXi ホストを選択し、"ファイル" の "エクスポート" から "システムログのエクスポート" をクリックします。 3. 表示されたシステムログの選択画面にてデフォルトのチェック項目のまま "次へ" をクリックします。 4. ダウンロード先に任意のディレクトリを指定し、"次へ"をクリックします。 ダウンロードしたファイルを採取してください。
クラスター関連ファイル	(※)クラスター関連ファイルについては各クラスターウェア製品により異なりますので、製品ごとにマニュアルを参照してください。 CLUSTERPRO X の場合 clplogcc コマンド実行して収集します。 使用するコマンド : clplogcc -o【収集情報格納先フォルダー】

操作ログ

再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

4.1.3. VMware vCenter Server 対応版で監視を行う場合

- StorageSaverVC 関連
  StorageSaverVC の構成ファイル群を保存します。
  Zip などを使用して、以下のフォルダー配下のすべてのファイルを採取してください。

  【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaverVC¥conf
  【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaverVC¥log

- イベントログ
  障害発生時のイベントログファイルを保存します。以下のファイルを採取してください。

  アプリケーションログ
  【windir】¥System32¥winevt¥Logs¥Application.evtx

  システムログ
  【windir】¥System32¥winevt¥Logs¥System.evtx

- マシン情報
  本製品を実行しているマシン上で、以下の情報を採取してください。

  コマンド出力結果

  SSVCadmin の実行結果
  >【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaverVC¥bin¥SSVCadmin.exe -i

  Filterlist の実行結果
  >【インストールフォルダー】¥HA¥StorageSaverVC¥bin¥Filterlist.exe

  powershell コマンドの以下の実行結果
  ※Windows PowerShell (管理者) を起動の上、コマンド入力してください。

  <vCenter Server 接続の環境の場合>
  Connect-VIServer -Server <V-IP> -User <V-ユーザー> -Password <V-パスワード> -Force
  (Get-VMHost -Server <V-IP>
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.core.path.list.invoke() ※2
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.san.fc.stats.get.invoke() ※2
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.core.path.stats.get.invoke() ※2

  <個別 ESXi ホスト接続の環境の場合>
  Connect-VIServer -Server <E-IP> -User <E-ユーザー> -Password <E-パスワード> -Force
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.core.path.list.invoke() ※2
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.san.fc.stats.get.invoke() ※2
  (Get-VMHost <E-IP> | Get-EsxCli -v2).storage.core.path.stats.get.invoke() ※2

  ※Powershell コマンド中の引数の説明
  <V-IP> : vCenter Server の IP アドレス
  <E-IP> : ESXi ホストの IP アドレス
  <V-ユーザー> : vCenter Server のユーザー名
  <E-ユーザー> : ESXi ホストのユーザー名
  <V-パスワード> : vCenter Server のパスワード
  <E-パスワード> : ESXi ホストのパスワード

(※2) 採取する ESXi ホストについて
基本的には、
<vCenter Server 接続環境の場合> vCenter Server 管理下の全 ESXi ホスト
<個別 ESXi ホスト環境の場合> 該当の ESXi ホスト
について採取してください。
ただし、vCenter Server 接続環境の場合で、ESXi ホストの台数が多い場合は、
障害の発生した ESXi ホストだけでも構いません。

- 操作ログ
  再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

- システム構成
  システム構成がわかる資料があれば提供してください。たとえば、システム構成図や、以下の情報などです。

  ・ <vCenter Server 接続環境の場合> vCenter Server 管理下の ESXi ホストの情報 - 名前と台数など
  ・ <個別 ESXi ホスト環境の場合> 該当の ESXi ホストの情報 - 名前など
  ・ ESXi ホストに FC 接続されたストレージデバイスの情報 - 名前と個数など
  ・ ストレージデバイスを構成する物理パスの情報 - ランタイム名と UID とパス数など

CLUSTERPRO
MC StorageSaver 2.8 for Windows
イベントログメッセージ一覧

2023 年 4 月 第 12 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111(代表)

© NEC Corporation 2023

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙